

# 技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部冬季号 < 第78号 > (平成21年1月15日発行)

## 巻頭言

## 平成21年度の新年を迎えて

九州支部長 光岡 毅  
(建設・福岡)



新しい年を迎え、今年こそ良い年でありますようにと祈っております。昨年は、世界的に見ても大変な年でありもう少し何か良いことはないのでしょうかと言われる年でした。

アメリカの住宅産業の行き詰まりから火がついて最近のリーディング産業である自動車産業の危機、さらに金融危機となり、また一方に於いて、あちらこちらにテロ事件が頻発し、インドでは年末になって多くの死傷者がでました、日本人も犠牲者が出ました。

科学技術の面では、本年は4名のノーベル賞の受賞がありました。大変な快挙であります。しかし、一方では、食品産業の不祥事、殺虫剤の混入事故、また、食用にすべきでない汚染米の流通など生活に直結する安心安全に生活を脅かしました。

食品の取り扱い、高度な薬品の取り扱いには、意外に技術士の関わりが低い分野で、とくに流通分野では技術士はまったく不在であります。

技術士の目の触れないところで行われる科学技術上危険である事柄については国民、マスコミは、責任ある有資格者とは無関係のところ業務が流れているということにまったく気が付いていないようです。

この点、アメリカでは各州法で企業にPE（技術士）を配置の義務付を規定する法律が制定されています。テキサス州のPE法制定のきっかけは、1973年、学校ガス爆発事故があり298人の死者の惨事、その年のうちに免許と業務規則による技術業の規制のPE法を立法されました。その背後には1850年から1910年にかけて、ボイラーの破裂事故が1万件を超え社会問題となっていました。その中でも1865年4月27日にはミシシッピ川で起きた蒸気船サルタナ号のボイラー爆発で1,238の人がなくなりました。

わが国では昭和32年に技術士法が制定されました。これは弁護士法、医師法などの職業が限定される資格とは異なり、技術士と名乗ることだけにのみ制約がある資格制度です。しかし、法律の目指す目的は、科学技術の向上と国民経済の発展に資することでありますが、公益確保の責務が業務を行うにあたり公共の安全、環境の保全その他の公益を害することにならないように努めることが義務付けられています。

技術士が国家資格であることそれはつまり国民が法律を作って科学技術に関し公共の安全・安心を技術士制度に求めているのです。技術士は国民の期待を心に刻み、国民に対し科学技術に関する安全・安心を、技術士の業務活動によって努めてゆかなければならないと思います。さらに、先に述べた手薄な分野については、技術士試験に多く受験させ、技術士の不在な分野をカバーしてゆくことが大切であります。

新しい年の迎え技術士の発展する年となるように期待して。

# 理事会報告

(平成20年度第3回H20.9.11、平成20年度第4回H20.11.13)



(社)日本技術士会理事 是永 逸生  
(機械、総合技術監理・北九州)

前号77号から今月までに、2回の理事会が開催されました、その内容を合わせて、重要事項をお知らせします。いずれも『月刊技術士』に掲載の議事録を参照下さい。

1) 現在の技術士会の最重要課題は公益法人認定申請です。そのために現状定款の全面的な検証の結果、定款第2(本会の目的)、第3条(基本事業)の内容改訂が必要との結論になり、以下の最終変更案が付議されました。

第2条：本会は、技術士の品位の保持、資質の向上及び業務の進歩改善を図るため、技術士の研修並びに国際交流を通し、広く社会に貢献することを目的とする。

第3条：本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 技術士及び技術者の倫理の啓発に関する事項
- (2) 技術士の資質向上に関する事項
- (3) 技術士制度の普及・啓発に関する事項
- (4) 技術士法に基づく試験及び登録に関する事項
- (5) 技術士の業務開発及び活用促進に関する事項
- (6) 技術系人材の育成に関する事項

- (7) 国際交流及び国際協力活動並びに国際資格に関する事項
  - (8) 科学技術を通じた社会貢献活動に関する事項
  - (9) 科学技術についての行政施策への協力及び提言並びに調査研究に関する事項
  - (10) 前条に掲げるもののほか、本会の目的を達成するための事項
- 2) 定款改定に伴う重要事項として下記を検討中で、成案が得られ次第理事会付議される。
- ①総会の定足数を1/3へ緩和、②代議員制度の検討中止、③事業計画及び収支予算決定手続きを理事会決議に変更し、臨時総会開催を省略、④支部以外に県単位等に対応した地域組織の設置、⑤準会員を一本化
- 3) 技術士CPD監査を今年から開始します。(CPD認定会員から開始)
- 4) 今春役員選挙を実施、選挙管理委員は九州支部から甲斐忠義副支部長に委嘱されました。
- 5) 平成21年度事業計画は公益法人を目指し、「行動する日本技術士会」として、さらなる発展に取り組みます。

## 政策委員会報告 公益法人化にむけて



政策委員 山口 一弘  
(建設・福岡)

2006年6月に「公益法人制度改革の関連法」が成立したことをうけて、日本技術士会は「公益法人をめざす」こととし、今政策委員会では

- 1、会の目的・基本事業
- 2、代議員制度
- 3、地域組織
- 4、定款等諸規定

について、2009年3月に「公益認定申請」を行うよう、検討が進められている。

「1の会の目的・基本事業」については、11月時点でほぼ成案が作られている(本文は月刊「技術士」

12月号に掲載)。「2、の代議制度」については、新たな「公益法人法」において、事業計画・予算の決定を含む業務の執行は、理事会の責任において行うことができることになり、総会を従前のように年2回(定時、臨時)開催する必要がなくなったこと、また、公益認定等委員会承認の「定款変更ガイドライン」で、総会の定足数を1/3にすることができることになり、代議員制度導入の必要性は格段に低下しており、今回は導入を行わない。「3、4、」についてはさらに検討中。

# 平成20年海外業務促進実行委員会活動報告



九州委員 宮田 守次  
(金属・北九州)

ここでは平成20年の海外業務促進実行委員会（以下本実行委員会という）の活動状況について 報告する。（以下2008.11.29研修会の杉山篤委員長説明資料より抜粋）

## 1. 主な目的

本実行委員会の主な目的は技術士の海外業務活動促進を図るために海外業務の情報収集及び海外業務の紹介、技術士の海外業務遂行能力向上のための研修会の開催等である。

## 2. 主な活動内容

本実行委員会は、国際業務を志向する技術士のために、海外に進出して、国際エンジニアとしての活動ができる環境の整備、基盤作りに力を入れ、国内外の関係機関にも積極的なPR活動をしている。更に国際技術士にふさわしい資質と能力向上を目指し研修、講習会、海外への技術調査など、継続的研鑽活動にも力を入れている。この数年、本実行委員会は次ぎの事項に力を入れ、活動している。

### 1) 海外を目指す技術士会、技術士のPR活動：

海外においては日本技術士会、技術士に関する知名度は残念ながら低いのが現状である。PR活動としては、ホームページの抜本的な見直しをし、また「技術士会と海外業務のしおり」の日本語版、英語版中国語版を作成して関係先に配布している。

### 2) 長期的な技術協力：

従来の斡旋は単発的なものが多く、将来に発展することが少なかった。そこで相手国などと相互に覚

書を交換し、長期的な展望の下に業務を開発する方式をとり入れつつある。ちなみに現在中国と省・市・大学単位で技術協力を進めている。これらについて次表に示す。今後これ等が順調に進めば他国にも拡大していきたい。

平成20年度11月現在の覚書交換機関一覧表

技術協力先	主な技術協力内容	協力発生日
中国国際人材交流協会	中国との基本的事項の取纏め	2004/12/25
中国品質協会	ブリッジSE養成学校講師派遣	2008/03/18
天津工程師範学院	講師派遣、関連企業のコンサル	2008/03/25
甘肅省国際人材交流協会	大学、研究機関、企業への派遣	2008/04/20
北京化工大学	講師派遣、共同研究、講義支援	2008/05/16
天津市外国専門家局	天津市のプロジェクトなど	2008/10/21
天津市経済委員会	天津市の企業管理方法など	2008/10/21
天津科技大学	講師派遣、共同研究、講義・講演	2008/10/22
山東省（予定）	水、大気汚染対応に関する打合	2008/

成都市、重慶大学、長安大学、北京教育部についても推進予定で折衝中である。

### 3) 天津市主催の技術セミナー：

2008年10月21日に日本技術士会として初めて提案した技術セミナーに技術士4名を講師として派遣し、合わせて、天津市及び天津科技大学と今後の技術協力について覚書を交換した。

### 4) 講習会：研修会：

年間1～2回の海外情報、スキルアップ化の研修会を実施。来年度は地方での研究会、連携、意見交換などを実施していく。

## 会員名簿発行の中止のお知らせ

平成20年度定時総会議案の事業計画において、会員へのサービス向上の一環として、会員名簿を12月に発行し、連絡体制等の充実に努めるとしていましたが、発行の準備は完了してはいますが、個人情報の漏洩に欠けるとして本部事務局の指導もあり、再度常任幹事会で審議の結果、発行を中止することにしました。悪しからずご了承ください。なお、本部ホームページ上で会員のパスワードを申請して本人の登録を済ませると、全国会員の情報が検索できますので是非登録をお願いします。九州支部の会員は50%程度しか登録をしていない状況です。よろしく申し上げます。

副支部長 甲 斐 忠 義

## 業務開発委員会報告

業務開発委員長 是永 逸生  
(機械、総合技術監理・北九州)

業務開発委員会はベテランの委員11名で構成し、技術士会員へ業務を開発することを目的として、毎月第3月曜日に委員会を開催している。

その議事録は支部HPに掲載しているので参考に願いたい。

昨年からは、本部の業務幹旋委員会の他に九州経済産業局や中小企業基盤整備機構、中小企業振興センター、商工会議所等地域の種々の組織との交流が多くなり、専門家派遣や事業紹介、助成金審査業務、中小企業支援の業務を行っている。

支援対象は技術士会員としているので、業務へ参画希望者は人材バンクへ登録して積極的に活動をし

ていただきたい。又、当委員会での活動も大歓迎である。

今年は、国や自治体から地方への支援政策として、新連携や新現役、農商工連携、さらに知的財産権や環境部門の業務の紹介や引き合いが多い。さらに中国を主とした海外との交流も増加しており、その意思のある技術士は、いろいろな形で海外での業務が増加している。

今年から技術士の活動スローガンは「技術士よ外に出よ」である。

国内外を問わず、積極的に技術士業務への参画の意思表示をしていただきたい。

## 平成20年度技術士試験総括報告

試験管理委員長 原田 政太  
(建設、総合技術監理・福岡)



新年明けましておめでとうございます。平成21年度もよろしくお祈りします。

平成20年度の技術士試験について結果の概要を報告します。

### 1. 試験日時

総合技術監理部門

平成20年8月2日 10:00~16:30

総合技術監理以外の技術部門

平成20年8月3日 10:00~17:00

技術士一次試験

平成20年10月13日 9:00~17:00 (共通)

11:30~17:00

### 2. 試験会場及び使用した試験室、監督員数

総合技術監理部門

九州産業大学 4教室 (監督員:12名)

総合技術監理以外の技術部門

九州産業大学 32教室 (監督員:90名)

技術士一次試験

西南学院大学10教室+九州産業大学15教室

(監督員:32名) (監督員:49名)

### 3. 申込者数と受験者数

①福岡会場の結果 (技術士だより第77号参照)

試験の種類	平成19年度			平成20年度		
	申込者数	受験者数	受験率	申込者数	受験者数	受験率
総合技術監理部門	384	281	73.2	393	302	76.8
総監部門以外の技術部門	2,567	1,919	74.8	2,996	2,343	78.2
技術士一次試験	3,785	3,105	82.0	3,140	2,591	82.5

②全国の結果

試験の種類	平成19年度			平成20年度		
	申込者数	受験者数	受験率	申込者数	受験者数	受験率
総合技術監理部門	4,446	3,283	73.8	4,305	3,218	74.8
総監部門以外の技術部門	26,418	20,229	76.6	29,994	23,203	77.4
技術士一次試験	33,893	27,554	81.3	29,166	23,574	

①総合技術監理部門の申込者数は横ばいである。  
平成21年度の福岡会場の申込者は400名程度と思われる。

②総監以外の技術部門の申込者は全国、福岡とも前年度の約15%程度増加している。福岡会場の申込者は3400～3500人程度と推定される。

③技術士一次試験の申込者数は二次試験とは逆に15%程度減少している。  
福岡会場では2600名程度と推定される。

④技術士一次試験申込者の減少はJABEEで資格を取得する学生の増加が一因とも考えられる。

現在九州管内でJABEE認定校は21校63課程に及ぶ。JABEEへの技術士制度の説明等が早急に必要である。

#### 4. 問題点と対策

①定員が70名以下の教室では、主任監督員1名、監督員1名の2名体制となるが、昼食等のため1名が教室を離れると受験生の手洗い誘導が出

来なくなる。

昼食時には本部補助員を交替要員として配属するが、できるだけ大きい教室を使用し3名以上の監督員体制としたい。

②九州産業大学の空調設備は各教室ごとに調整が出来ないため、窓の開閉等で対応せざるを得ない。

③学生の試験監督員の応募が少ない。企業内の技術士補の登用を検討する。

④技術士の監督員は本部会員であり、21年度の監督員希望者リストに登録されている者から選考する。(後日監督員希望者を募集する予定)

⑤本部から送付される委嘱状が遅い。1週間ぐらい前倒しで作業してほしい。

⑥喫煙場所以外で喫煙する者があとを絶たない。黒板に「喫煙場所以外では喫煙禁止」と書いておく事が有効か？。

## 平成20年度CPD (第3回) 報告

CPD委員 棚町 修一  
(建設、総合技術監理・福岡)

平成20年10月25日(土)、福岡商工会議所で第3回CPDが開催されましたので報告します。

1) 溝口督生氏(平野特許事務所弁理士、大分大学客員研究員、九大非常勤講師)

【演題：技術戦略と知財】

この講演では、①地財についての知識及び経験を用いて、企業をサポートするにはどうしたらよいか。②企業サポートにおいて必要となる地財の法的な考え方、③技術士の得意分野と弁理士の得意分野が融合するとレベルの高い企業サポートができることをお話いただきました。

2) 篠原 隆氏(農水省九州農政局企画調整室長)

【演題：バイオマス利用の新時代】

この講演では、近年注目を集めている「バイオ燃料」の現状や課題を含め、九州における事例の紹介しつつバイオマス利用の取組み状況についてご紹介いただきました。今後の課題として、国産バイオ燃料の更なる拡大に向けた取組、九州地域におけるバイオマス利活用取組があげられました。

3) 町田三郎氏(九州大学名誉教授)

【演題：中国の学問と日本】

この講演では、①中国の学問の歴史、②日本の学問への影響についてお話がありました。中国では学問文化を代表する論語・孟子、四書五経、李白・杜甫の漢詩、史記などの中で、四書五経の「経典」を一義的に重視したこと、日本では万葉集や心古今和歌集、源氏物語に代表される情的文芸が盛行し重視されたことのお話がありました。

4) 西山徳明氏(九州大学大学院芸術工学専攻教授)

【演題：文化遺産とし見る近代化技術の資産】

この講演では、①世界遺産の概念、②日本の文化財保護行政の現状と課題、③新たな文化財保護の枠組みと歴史文化基本構想について説明がありました。特に英国、フランス、中国、東南アジアでの文化遺産の保存活用の事例を紹介しながら、広い視野で文化遺産のマネジメントを考えないといけないこと、観光(ツーリズム)への遺産の活用についても同様であることを力説されました。

## 部会報告

### 第二部会

## 現場見学会・建設技術セミナー



第二部会長 佐竹 芳郎  
(建設、総合技術監理・福岡)

#### 1. はじめに

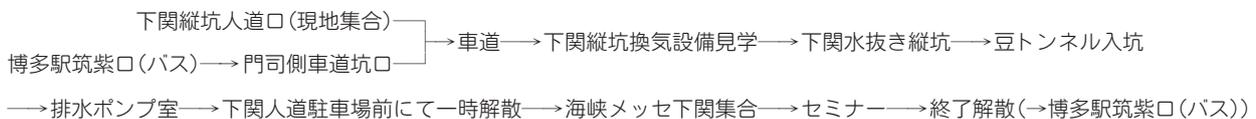
平成20年10月15日に、関門国道トンネルの現場見学会・建設技術セミナーを第二部会のCPDとして開催し、60名に参加していただきましたので報告します。

#### 2. 研修内容とスケジュール

平成20年3月に開通50周年を迎えた関門国道トンネルでは、10月15日から12月14日まで車道部全面通行止めによるリフレッシュ工事が行われるに際し、その初日に車道部や管理施設の見学(午前)とセミナー(午後)を開催しました。

10:00～11:50	海峡ウォーキング トンネル車道	換気・排水施設等の現場見学
11:50～13:00	昼休・移動	セミナー会場 海峡メッセ下関(国際貿易ビル804会議室)
13:10～13:40	主催者挨拶・講師紹介	
13:40～14:10	関門国道トンネル建設の時代と経緯	講師：関門会代表 川崎迪一氏(技術士)
14:10～16:10	関門国道トンネル開通後50年間の供用における維持管理	講師：NEXCO西日本(株)九州支社下関管理事務所副所長 宮崎雄二氏(技術士)
	建設事業広報の重要性：	
	古川薫氏による小説「夢の道ー関門海底国道トンネル」発刊までの道のり	
	講師：村上英明氏 元日本道路公団下関管理事務所副所長(技術士)	

#### 3. 現場見学順路及びセミナー



#### 4. 現場見学

福岡市内からの参加者(23名)はバスにて門司口から、下関縦坑前に集合した参加者(39名)は人道から、車道へ入場して合流しました。普段は日交通量3万台がひっきりなしに通行するトンネルですが、当日午前0時より一般車通行止めになり、ひっそり静まりかえていました。

次に人道エレベータで地上へ、下関縦坑内のトンネル換気装置(送風機、排風機各3台)を見学しました。引き続き、下関縦坑から5分ほど歩いてトンネル管理施設内にある下関水抜き縦坑から、業務用エレベータで豆トンネル(パイロットトンネル：現在は管理・排水用トンネル)に入坑しました。



海底部へ続く通行止めの車道部



換気装置の説明を聞く参加者

豆トンネル内では一時も休むことなく稼働しているトンネル排水施設を見学し、海底トンネル建設と維持の歴史を感じました。流れ出る水を口に含むと、海底から海水が漏れ出ていることをまさに実感できました。

## 5. セミナー

午後から、「海峡メッセ下関」に移動して、セミナーを開催しました。関門会代表の川崎氏が主催者として挨拶と関門国道トンネル建設の時代と経緯を説明したあと、宮崎氏から、開通後の運用経緯、維持管理状況等の説明をしていただきました。



狭い豆トンネル内



坑内を流れる水と排水施設を見学

続いて村上氏から、「建設事業広報の重要性」と題し、世界初の海底の長大道路トンネルである関門国道トンネルは戦前から戦中そして戦後の混乱の時代に翻弄される複雑な経緯と制約の中で、国家プロジェクトとして50年前に開通したこと。ここで取り入れられたわが国初の技術の多くが引き続き建設された、長大道路トンネルの建設、維持管理技術に採用されてきたことが紹介されました。

それはまさにドラマであり、関門国道トンネルの建設に関わる物語と関係者の努力を記録し広報することの必要性を、日本道路公団下関管理事務所在籍時に痛感し、小説化することを使命として奔走したこと。

そしてようやく古川薫氏(下関在住・直木賞受賞作家)に小説「夢の道－関門海底国道トンネル」(文芸春秋社刊)を説得して執筆してもらうまでの紆余曲折について、さらに技術者は社会に向かってもっと積極的に発信すべきというメッセージを熱く語っていただきました。

## 6. 研修の評価（アンケートの集計から）

供用50年経過した海底道路トンネルの、普段見ることが難しい施設とその維持管理状況の見学、そして建設事業を小説にして社会に発信し後生に残す、という発想を実現する経緯についての講演による研修でした。見学と講演はユニークな切り口のCPDとして、若い技術者にも多数参加していただき、熱心に見学・聴講・質疑応答し、社会資本整備と維持管理の重要性の再認識、そして技術と歴史を次世代に継承する機会になったと思います。参加者をお願いしたアンケートからみてほしいへん好評でした。

## 7. おわりに

この研修は、建設に従事したOBの親睦会である関門会(川崎代表：元九州支部長)が、開通50周年記念に際して計画し、第二部会と共催により、NPO法人西日本建設技術ネット\*が運営代行したもので、CPD 4時間の参加証明(土木学会認定)を発行しています。

関門トンネルを管理する西日本高速道路(株)九州支社下関管理事務所の皆さまには、現場見学の際、誘導・案内と説明、そして講師を派遣していただき、たいへんお世話になりました。厚くお礼申し上げます。併せて、山口県技術士会の方々には、協賛して16名に参加していただきました。参加していただいた福岡・北九州地区の方々、(社)建設コンサルタンツ協会九州支部、後援していただいた(社)土木学会西部支部他、ご支援・ご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

参考資料：日本コンクリート工学協会「コンクリート工学」誌2008年9月号報文

特集\*あの構造物は、今・「関門国道トンネルの現況」

### NPO法人 西日本建設技術ネットの紹介

福岡市を中心に活動する当NPO法人は、不特定多数の市民・団体等に対して、生活の安全・安心の一つの要素として、健全で持続可能な社会基盤の整備に向けて、制度的にも公正かつ適正な建設技術の運用と展開のできる社会環境を確立することを目的としています。

具体的には、福岡地区の住民生活において社会基盤をなす公共インフラが、持続可能な安心・安全を担保することを第一義として、経験豊富な建設専門技術者主導により、活力ある明るく住み良い成熟社会を構築することを目指しています。

詳細については、ホームページをご覧ください。

## 第四部会

# 技術講演会の報告



第四部会長 小宮 信行  
(上・下水道・福岡)

技術講演会は、昨年11月4日に、福岡市堅粕公民館で、お2人の方に講演会でした。

今回は海外に派遣され、技術指導等で活躍された方々に、海外で困った事・苦労した事・日本との違い等を講演していただきました。

最初の福岡市水道局技術管理課 徳富勇紀さんは、平成14年9月から17年9月までの3年間、JICA専門家として、フィリピンのLWUA（地方水道庁）に派遣され技術協力をされました。

LWUAは、国の機関で、全国の水道事業体を管轄していることもあり、地方出張が200日以上となっ



たそうです。その大半は指導研修ですが、写真はその一場面です。水源は井戸が多く水質も大変悪いそうです。

浄水場施設でも必要な薬品類は、お金が無く買えないから注入しないとの事で、現地の水道は飲料には利用できない状況です。徳富さんも家事に利用する水は、ポリタンクで買っていたそうです。雨水を貯めて洗濯に使う子供の写真もありました。



掲載の二人の子供が水を運ぶ写真を見せられると昭和20年代の子供時代に離れた共同井戸から、風呂水等を運ばされた記憶が思い出されました。

徳富さんは指導者として若く見られたので、派遣の期間は「あご髭」を生やしていたそうです。

意見交換会で聞いた話ですが、奥様も当然同行されていていられるのですが、海外の生活を楽しんでいられたとの事です。福岡市水道局のJICAによる長期海

外派遣は20年以上の歴史があります。

また予定外で元福岡市水道管理者藤井利治さんが、フィリピンの首都マニラの民営水道会社二社について経営の成功と失敗事例の説明がありました。



講演中の赤司さん

有収率65%に高めた東会社は成功して、有収率32%の西会社は倒産したそうです。また水道料金は所得の3%程度に抑え、配水管整備にも10%は投資する事が成功するとの説明がありました。

続いて福岡市道路下水道局博多駅地区浸水対策室の赤司幸男さんは、福岡市とマレーシア国ペラ州イポー市間で行っているJICA草の根技術協力事業で、昨年12月にマレーシアで活動した内容について報告されました。河川を担当するペラ州政府では、モンスーンにより毎年発生する4,000haの洪水被害を軽減するための対策や河川水の浄化対策、内水を担当するイポー市役所では雨水調整池やポンプ場による浸水対策、汚水処理を担当するインダ下水道公社では、多数の点在する汚水処理場管理や住宅開発事業で造られる汚水処理施設の引き継ぎ等、それぞれの課題をヒヤリングや現地視察を行い取りまとめ、次年度以降の技術支援に反映させるそうです。住宅開発で作られた汚水処理施設が数多くありその管理に困っ



ているようです。

工事現場の写真ですが、基礎工事がされないまま施工されています。赤司さんは、現地で購入した銀杯、旧日本兵使用の紙

幣、地図等を見せて現地状況が詳しく判る講演でした。講師方ありがとうございました。

# 平成20年度第2回支部長会議報告

開催日時：平成20年10月6日

開催場所：福岡市内ホテル

出席者：高橋修会長、吉田克己副会長、北村友博副会長、岩熊まき副会長、高木譲一専務、西村文夫常務理事、大谷邦博常務理事、大島紀房北海道支部長、吉川謙造東北支部長、中山輝也北陸支部長、辻喜礦中部支部長、福岡悟近畿支部長、牧山昭彦中・四国支部長、光岡毅九州支部長、九州支部副支部長（是永逸生、長野紘一、大橋義美、甲斐忠義）北島孝則事務局長 議事録作成副支部長 甲斐忠義

主要議題

## 1 本部報告

技術士会の当面の主要日程、平成20年度1次、2次受験状況、役員選挙管理委員会委員の推薦について、支部会計説明会および意見交換会開催のお知らせ、秋季入会活動状況、広報活動状況、公益法人制度改革への対応状況について、定款第2、3条の改定案に対する会員意見とその対応検討の状況、定款第5条における地域組織に係わる検討について、第3小委員会での検討状況中間報告、移行認定のための「定款の変更」案の作成

## 2 支部報告

中・四国支部 牧山支部長

- 1) 修習技術者へIPD番号の発行の必要性について
- 2) 日本技術士会の情報セキュリティ要領作成要望
- 3) 支部事務局の責任ある組織整備について
- 4) 第35回技術士全国大会参加申し込み状況報告

近畿支部 福岡支部長

- 1) 技術士CPD中央講座（防災）の実施状況報告（H20.9.6）参加者160名
- 2) 第2回WEB会議H20.9.17実施報告
- 3) 本部のホームページに支部コーナーを設ける要望
- 4) 2008年上海との交流会報告

市民フォーラム「食の安全・安心と健康管理」講演  
中部支部 辻支部長

- 1) 会員拡大支部キャンペーンの実施状況報告
- 2) 第37回日本技術士全国大会について構想案報告（2010年9月25日開催）
- 3) 平成20年地域産官学との合同セミナー開催報告

テーマ：「ものづくり愛知は地球温暖化防止にどう向き合うか」

H20年11月22日（土）名古屋工業大学 400名  
北陸支部 中山支部長

- 1) 日韓技術士会報告 H20.9月28日～10月1日  
韓国側 179名、日本側201名参加 通訳2名  
計382名

- 2) 地域産官学と技術士合同セミナー 11月5日予定（地方職員と技術士との合同セミナー）

東北支部 吉川東北支部長

- 1) 第36回技術士全国大会の取り組み状況報告  
大会テーマ：「(社会の)安全安心と技術士の役割」  
2009年10月15日・16日

開催 仙台国際センター

北海道支部 大島北海道支部長

- 1) 「ECO宣言」とエコリーダーのeco検定に北海道支部が参加

検定は7月実施、検定機関は、札幌商工会議所

- 2) 支部出前授業について

平成20年度教育サポート実績 10件

- 3) 地方技術士会の活動状況報告

(道南、道央、道北、道東、オホーツク技術士会)

- 4) 会員拡大広報パンフレット作成配布

一無限の可能性を確かなものにする 技術士一

九州支部 光岡支部長

- 1) JABEE説明員登録について

九州支部では、実施組織として責任者を支部長とし各地区代表幹事が説明者を選任する。説明員への謝金・交通費は九州支部事務局で支払うことにする。

- 2) 九州支部の新しい取り組みと活動

常任幹事会の開催、青年部会の活動、一般企業および企業内技術士との交流等

## お詫び

本号より「技術士だより」の改訂版をお届けする予定にしておりましたが、コーナー別の紙面レイアウトの統一、ホームページとの連携等の部分で準備が遅れていることをお詫びいたします。

## 地域だより

### 大分

#### 平成20年度現場見学会

大分県技術士会副会長

**古城 輝夫**

(応用理学、総合技術監理)



平成20年10月20日(月)、23名で現場見学会を実施しました。今年は趣向を変え、建設系の現場ではなく、中津にあるダイハツの自動車組立工場を見学しました。

中津工場はミラ、アトレーワゴン、ハイゼットなどの小型車を中心とした組立工場で、2004年12月に第一工場が創業を開始し、その後、売上が好調なことから、2007年12月に第二工場を建設し、現在、年産46万台体制で稼働しています。工場の敷地面積は1.3km<sup>2</sup>で東京ドームの28杯分にあたるそうです。

工場の中に入ると、生産ラインの高効率化(コスト、品質、工程)を図っているところが随所に見られました。例えば、車のボディーがリフトに乗せら

れたような状態で整然と運ばれていく中で、少数の作業員が自分の持ち場の部品をすばやく組み立てているところや、溶接の工程では、最新鋭のロボット達が瞬時に溶接を済ませ、次の作業に引き渡している様子はテクノロジーの最先端を見ているようでまさに圧巻でした。そのエリアでは特に参加者の関心が高く、管理システムについてなどの活発な質疑応答がなされました。

ダイハツでは環境にもかなりの力を入れており、その一端として敷地内に独自の排水処理施設を有し、工場からの排水を上水に近い状態(瀬戸内基準をはるかに上回るもの)にして一部を再利用しているそうです。また、工場の周囲には騒音対策として土塁が取り囲み植樹がされているのには感心しました。

余談ですが、ダイハツ中津工場の見学会は予約制で時間規制があったため、事前に安心院ワイナリーに寄りました。安心院ワイナリーでは各自1本の購入が許され、ほとんどの人がソムリエお勧めの口当たりの良いワインを買い求めました。メンバーの多くが奥様へのお土産に購入したのは普通の罪滅ぼしのつもりでしょうか。

### 宮崎

#### ローカルCPDの 取り組み

地区広報委員 **藤原 秀志**

(建設、総合技術監理)



皆様、明けましておめでとうございます。

さて、「NPO法人みやざき技術士の会」では、長年懸案であったローカルCPDの第1回研修会を平成20年11月28日に開催しました。以下にその背景と趣旨及び今後の展開等について述べます。

##### 1. ローカルCPD実施の背景と趣旨

- 近年の公共事業の削減に伴い県内各社の経営が厳しさを増し、技術者の都市部での研修会等への参加が困難になっていること。
- 特に宮崎県においては、入札制度が急速に変革していく中で落札率が急激に落ち込み、各社、調査研究費を削減せざるを得ない状況にあること。
- 測量業務や補償業務さらに地質調査業務においては一般競争入札への移行によって、くじ引きで落

札者が決まるケースが頻発していることから、年間の研修計画が立てられないこと。

- RCCM資格取得者へのCPDが義務化されたが、上記のような理由からCPD単位取得に窮していること。

以上のような現状を踏まえ、本NPOでは「県内技術者のCPD単位取得のための経費節減と講演者自身のCPD単位取得」を趣旨として、県内でCPD研修会を開催したものです。また、受講者へのインセンティブの付与と講演者のモチベーションの向上ため、本研修会は(社)建設コンサルタンツ協会及び(社)農業農村工学会のCPD認定を受けました。さらに、県職員など公務員技術者の参加に支障がないように宮崎県の後援をいただきました。

##### 2. 今後の展開

今回の研修会は、CPD単位取得が急務な建設系の技術者を対象にしたものですが、今後は他部門の技術者も一緒に参加(受講者又は講演者として)できる内容の研修会も企画していく必要があります。また、地方の技術者がさらに容易に多くのCPD単位を取得できるように、隣県同士で相互に研修会に参加できるシステムを構築する必要があります。

## 熊本

### 熊本地域での今後の活動について

広報委員 吉田 紘彬  
(応用理学)



景気の低迷で毎日が一生懸命のこの頃です。昭和50年頃、技術士は自分の技術商品を持たなくてはならないと言われ、未だ頑なに“周波数効果を利用した電気探査(DI法)”を売り込んでいますが、役所の壁が高く厚いことに悩まされています。先日は九州農政局に売り込みに行って、「電気探査で直接水脈位置が分かるはずがない。もっと一般化した技術でなければ採用できない。」と言われ、技術士が苦勞して開発したオリジナルの技術は、試験的にも公に採用できないのかと腹立たしい気持ちになりました。あわてることはないと言い聞かせながら、熊本城を見上げると、築城400年で復元された本丸や櫓類・周囲の木々に囲まれて落ち着いた雰囲気を感じています。本丸御殿は、加藤清正が豊臣秀頼を招く予定で作ったとされる昭君之間の壁絵(中国の悲劇の美女、王昭君の物語が描かれている)や天井の絵(肥

後六花他が描かれている)は目を見張るばかりですが、人吉から運んだ巨木の梁も見事なものです。お暇な折りに是非お越し下さい。

さて、熊本県技術士会・NPO法人熊本技術士の会では、平成21年1月31日(土曜日9:00~15:00)に石の文化バスツアーとして菊池川水系の土木遺跡・偉業の見学会を予定しています。暮れの役員会ではこの件と会員拡充・セミナー開催について話し合う予定です。熊本技術センターは(社)日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センターを解散し、NPO法人熊本技術センターとして生まれ変わり、環境・地下水に関する業務と地域に対する技術的支援に関わる業務を行う予定です。



## 鹿児島

### 鹿児島県技術士会の活動について

広報委員 後藤祐一郎  
(農業、総合技術監理)



鹿児島県技術士会の最近の主な行事について報告します。

鹿児島県技術士会では去る9月26日に、日本技術士会九州支部光岡支部長のご列席を頂き、創立20周年記念事業を開催しました。鹿児島県技術士会は、昭和63年9月に地域に於ける技術士業務の啓発、発展に寄与することを目的に会員34名で設立され、日本技術士会九州支部並びに九州技術士センターに役員を派遣するほか、独自の活動を行って来ました。今年の会員数は12部門の244名を数えています。記念事業は、記念式典、記念講演会、記念祝賀会の3部で構成し、記念式典では会長式辞のほか、光岡支

部長祝辞、「20年の歩み」と題しての会の歴史の紹介、名誉会員への感謝状の贈呈を行いました。

記念講演会は、鹿児島大学総合研究博物館の大木公彦教授が「鹿児島の自然を探る・知る・考える」と題して講演を行い、約90名が聴講しました。

第14回西日本技術士研究・業績発表年次大会が11月14~15日に142名が参加し、鹿児島市で開催されました。この大会は、西日本地域の日本技術士会近畿支部、中・四国支部、九州支部の3支部持ち回りで開催されており、九州では平成17年に佐賀市で開催された第11回大会に次いで行われたものです。

大会は第1日目が式典と記念講演からなる本大会と分科会が、第2日目はテクニカルツアーが開催されました。記念講演では、「鹿児島維新ふるさと館」福田賢治館長が「篤姫が生きた時代背景と薩摩」と題して講演し好評を博しました。

第1分科会では、「ふるさとの物産と観光」をテーマに7名の、第2分科会では、「産業、歴史・文化遺産と観光」をテーマに9名の発表が行われました。

I

### もてなしと技術力

南里 勝

(建設、総合技術監理・佐賀)



長らく地方自治体の職員として勤めているが、最近では公共サービスや住民サービスのレベル向上を考え実践することが要求されている。今も、公僕として公共サービスに努める日々であるが、3年前に、この日常の認識を新たにしている日々を過ごした。

というのは民間に派遣され、お客にとって親しみやすい「もてなし」はどんなものか？、喜ばれる「サービス」とはどんなものか？、を肌で感じる時間を過ごすことができたからである。

私が派遣されたところは、吉野ヶ里歴史公園であった。国内に16の国営公園があるが、吉野ヶ里公園はそのひとつである。これらの国営公園の多くを財団法人公園緑地管理財団が管理運営しており、有料公園として来園者へのもてなしを工夫しながら運営を行っている。公園の管理運営において、来園者が少なくなると経営が成り立たなくなることは言うまでもない。

このような国営公園でも、技術力を必要とする機会は多い。とくに、吉野ヶ里歴史公園では弥生時代の遺構を残して弥生の風景を呈出しているが、一方では国営公園としてのもてなしの提供と安全性を確保して、お客の満足度を上げることが責務となっている。一つの例を挙げると、当地は弥生時代の遺構を残してマサ土で覆い植栽しているものの、私が公園で見た樹木は元気がなかった。この原因は、マサ土が強く締め固められて樹木の根が十分に張ることができず、土壌からの水分や栄養が十分に供給されていないことにある。

樹木の専門家である樹木医と一緒に公園内を調査して対策を検討した。強く締め固まったマサ土は土

木工事ではよい評価を得られるが、樹木にとっては透水性や間隙が大きく影響することを聞かされた。

私は建設部門（土質・基礎）の技術士である。土木工学や地盤工学として土の扱いにはそれなりに自信があったものの、植物に対して土がどのように影響しているかまで知る機会がなかった。この経験から、土木工学的にできあがったものがどのように、とくに生きもの（人間や樹木）に影響しているのかを、建築物と生きもののバランスというものがあることを知った。これまで「作りっぱなしで満足」としていたことが、いかに多かったか。

樹木は環境が変わるとある程度は対応できるが、それには限度がある。元気がない時にはガンバレと言ってやって環境改善や栄養補給をしてやらないといけない。

これは公園全般の管理運営においても同様であることに気づいた。つまり、来園者の気分（樹木の樹勢）が景観・雰囲気・快適さ（気象・土壌の環境）とかなり関連しており、来園者へのもてなしUP（樹勢回復）のためには、お客（樹木）の要求に応じたサービス提供（栄養補給）を時機みて効果的に実施することが肝心であること。この時機の要求を逃すと、その後の対応が難しくなることは人間も樹木も同じだ。このニーズを感知するためには、技術力が必要である。

「また来たい、また見たい」という意識をお客にもってもらうためには、ものごとを見る目と解決力とその連環が求められると思う。このような即効的な感覚を、これまでの職場では感じることはまずなかった。

最後に、昨今の小中学生の理科離れをよく聞くが、学校や地域社会などへ技術士が出向いて科学技術への興味を子供たちにもわかりやすく説明する環境づくりが必要ではないか。これらのもてなし（サービス）の積み重ねが、技術士の世間認知度のUPにつながるのではないかと考えているこの頃である。

## Ⅱ

# ニュージーランド 滞在記

和田 義昭  
(衛生工学・福岡)



私がニュージーランド（以降NZとします）旅行を  
決意したのはプロジェクトが一区切り付いて充電を  
する為であった。

どこにゆくか？が問題であったが、家族で話し  
合った結果、約1ヶ月間（2007年12月13日～1月7  
日）をかけてのNZ家族旅行（4人）に落ち着いた。

幸い娘がここ4年ほど毎年年末から正月にかけて  
NZに旅行しており現地事情にも詳しいので訪問先と  
スケジュールを作成してもらった。行き先は南島で  
ほぼ一周するコースである。NZは日本の面積より少  
し狭い程度で海岸線の長い形状をしており気候も日  
本に良く似ていると言われている。人口は400万人  
余で極端に人口密度が少ない（日本の約1/30）

公共の交通機関は飛行機、バスが主流で、鉄道は  
観光用に一部走っている程度でそれ以外は貨物用線  
路があるだけ。そこで我々はクライストチャーチでレ  
ンタカーで約1ヶ月間走るようになった。当初は地  
図も詳しいものが入手できなく、かつ車にもナビシ  
ステムも付いてなく不安であったが杞憂に終わった。  
なぜなら路線は極めてシンプル、有料の高速道路も  
なく国道（ステイツ ハイウェイ）が島の周囲を廻  
り、要所を横断しているだけである。道路標識を見  
落とさなければ間違いなく目的地に着く。制限時速  
も100km、日本と同じ左側走行、おまけに車が少な  
いので目的地の距離が分れば到着時間はピッタリ計  
算が出来ます。人口が少ないこともあり国道に沿っ  
て数百人から数千人程度の町が宿場町のように点在  
しています。共通した特徴はどの町にもガソリンス  
タンド、コンビニストア（又はスーパー）、レス  
トラン、公衆トイレ、バックパッカー（宿）が道に  
沿ってあります。これは私の推理ですがNZには海外  
から毎年400万人以上の観光客が訪  
れます。旅行者の  
ほとんどが車で廻  
るためどこにでも  
滞在が出来るよう  
になっているので



は？と思い観光地図を眺めて納得しました。NZの至  
る所に風光明媚な観光スポットがあります。

一見酪農国のように見えますが大部分の人が観光  
関連に従事していることが理解できました。自然を  
大事にすれば自然がお金を稼いでくれるのですね（納  
得）

NZにはバックパッカー（宿）と呼ばれ、安価で便  
利な全国共通仕様の宿泊施設があります。日本と言  
えばユースホステルのようなものです。寝室は蚕だ  
な形式の2段ベッドの共同部屋が主体で家族用の個  
室もあります。

また談話室、台所、共同トイレ、シャワールーム、  
洗濯場が基本的に構成されています。食事は全て自  
炊になります。（近くのスーパーで買出し）食器な  
ども全て整っていますので全く不自由しません。

夕方になれば台所は大賑わいです。世界中の若者  
（学生が多い）が来ていますので、各国の言葉が入  
り混じります。食後の団欒の場になりますと言葉が  
英語に変わり国際交流の場面が展開されます。私の  
年代では考えられない風景です。国際化は着実に進  
み英語は標準語であると強く感じた次第です。社会  
人も多く、あるドイツの小学校の先生は冬休みを利  
用してNZを2ヶ月かけて廻るとのこと、目的は旅行  
してその結果を生徒に話して教材にするとか。（ど  
こかの国の先生とは大違い・・・）

家族が挑戦したアクティビティは氷河の上を  
歩く氷河トレッキング、カヌー、乗馬、ジェットポー  
ト、山登り、またヘリコプターと軽飛行機による遊  
覧飛行などを楽しみました。このようにNZには自然  
を対象とした各種のツアーが至るところで展開さ  
れています。残念ながら詳細は紙面の都合でお知ら  
せできませんが素晴らしいの一言です。今回の旅行  
を通じて日本との違いは

- NZは自然保護に積極的で自然との共生で外貨を稼いでいる。
- NZの人々は自然を楽しみながら人生を過ごしている。
- 日本ほど物質は豊かでないが貧乏でもない、
- 人々は親切で心が豊である。

などを強く感じました。



皆様も時には充  
電を兼ねてNZを訪  
問しては如何です  
か？きっと何か得  
るものがあると思  
います。

# 大学教育における量的拡大から 質的充実への転換



北九州地区幹事 沼尻 健次  
(機械、総合技術監理、上級教育士・北九州)

経団連及び大学の代表から成る重点技術産業競争力委員会がまとめた提言「日本の技術集約型産業の国際競争力強化に向けて」や経済同友会による「日本の技術革新戦略」など、産業振興に向けた各種提言が出されてきている。そこでは、技術革新こそが未来を切り拓くというのが各提言に共通するメッセージとなっている。

ところがその足元が揺らいで、技術革新を支え強かに推進すべき研究者・技術者不足という大きな課題に直面しつつある。例えば、工学部を志願する高校生の数は、この10年余りの間に40%も減少しており、また高校での理系クラスと文系クラスの比が約1:4、センター試験の物理選択者が全受験者の数%以下という事実がある。

大学の研究者及び産業界の技術者がいなければ、次世代の産業を生み出す技術革新の創出はおぼつかない。技術に対する若者の関心が薄らぐ、いわゆる理科離れ・工学離れの問題を国や大学に任せるのではなく、技術士もこれまでの教育への関与が十分であったのか、小中高における教育制度や社会システムにまで遡った反省が必要であると言えよう。

特に小生のような技術士として工学教育に携わる者にとっては、殊更に産業界と共に技術革新を生み出せる人材の育成について、大学から積極的な関与を要請されていることを痛感する。

広い教養に裏打ちされた見識と深い専門技術は、これからの日本の技術革新を支える車の両輪である。このための人材育成に向けて、大学における学問としての教養教育と専門工学教育の更なる改革に加え、工学を社会に還元することのできる人材を育成する上で、産業技術出身の技術士として果たすことのできる領域は極めて大きいと考える。

例えば、大学・大学院生に対する**技術者倫理教育**への協力がある。産業界においては、科学的にすべてが解明されていなくても、推論と経験(Know How)の助けを借りて設計が行われ製造される。ここで安全に対して最大限の配慮がなされたとしても、それは経済的にも技術的にも制約された条件下においてであり、製造物は必ずしも安全ではなく事故は起こり得る。即ち危険の可能性は常に存在する。その危険に関する責任関係は依頼者に対してだけではない。

技術の目的は人間生活を豊かにするところにあり、技術者が設計・製造したものが社会の用に供されることから、当然技術者は社会に対して責任を持つことになる。高度成長期には効率良く機能していた集団として力を発揮する日本的経営システムは、徐々に進む産業構造の変革の中で組織としての拘束力が弱まり、技術者個人の能力が問われ責任の所在を明確にする自律的な行動が求められるようになってきた。従って、技術系高等教育機関としての大学では技術者倫理教育をカリキュラムにどう組み込むかが問われるようになったが、技術者倫理教育の目的は知識の伝授ではなく倫理的問題を解決する実践的知識や能力を育成するところにあり、特に産業界における研究・開発の実践的なエンジニアリング経験を持つ技術士こそ、大学における技術者倫理教育に協力し貢献することができると言っても過言ではない。

これからの産業界の基盤的担い手は大学・大学院出身の技術者であるが、**日本技術者教育認定機構(JABEE)**は、その担い手の技術者教育目標を「技術が社会及び自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者として社会に対する責任を自覚する能力(技術者倫理)」と規定し、技術者の社会的責任については「大学が何を講義したか」ではなく「学生が何を理解したか」を問う評価システムの導入を要求している。このような社会との関わりが課題となる分野では、産業界で実践的経験を有する技術士が参画する役割は極めて大きい。

また経営専門大学院課程(MOT教育課程)においても技術者倫理に加え、技術戦略企画、技術管理、プロジェクト管理及び開発管理などのエンジニアリング関連分野のカリキュラム策定に関して技術士として積極的に参画していくべきであると考え。

更には、小中高まで遡った**理科離れ対策**としての技術教育への参画による理工系大学志望の優秀な次世代の育成支援に関しても、エンジニアリングを専門とする技術士の貢献が期待されていると言えよう。

これからの工学教育において、広く社会の要請に適った学際的な連携を高次元で判断し実行できる技術者の育成のために、技術士として工学教育の一翼を担い、大学教育の量的拡大から質的充実への転換に向け努力することが急務であると確信する。

# 技術士活動を振り返って



柏原公二郎  
(応用理学・長崎)

サミュエル・ウルマン（1840～1924）の詞に「青春とはある時期を言うのではなく、心の様相を言うのである・・・。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」と言う下りがある。これを口ずさむ時、私は青年技術士に若返る。

私が在籍している会社の創業者（故会長）は根っからの技術者でワンマン且つ儉約家であった。1981年、縁あってこの会社にお世話になるようになったが、当時会長は技術士を迎えコンサルタント分野への進出を望んでいた。私は研究・開発が出来る企業を探していた。そこに両者の思惑が一致したのである。当時の資金は会社にとって決して安い額ではなかった。私の研究が成功するか否か、又それが将来どういう価値を生み出すものか等、聞きただすことなくポーンと気前よく出してくれた。

私は、それまで手掛けてきた製品を改良し十数年かけて試作、実験を重ねることにより新解析法を確立することが出来た。成果は既に学会誌等に発表済みである。一方、会社の仕事に手を抜く事はなかったと思う。お互いの信頼と責任の上に実を結んだのである。

ここで私の性格を自分なりに診断してみると、生まれつき工作が好きである。子供の頃から小刀を放したことはなく、左手は常に右手の被害者であった。興味ある問題が生ずると納得するまで考える。食事中、夜中でも目が覚めると考える。母に「お前は一事に何時までもこだわり続けている」とよく言われた。私には「いい加減に・・・」という言葉が苦手である。この性格は人間関係には向かない場合がある。

執念深いと言えはそうかもしれないが、この変哲な性格が私の発明・発見を生み出した。

ある時ふと良いアイデアが浮かび、これを見逃さなかった。自分の短所（長所？）がうまく結実したのであろう。こうして開発した製品は新しい解析法

を確立し現在活躍している。「模索」という闇の中で「ひらめき」という灯りを見つけた時、言葉にならない程の感動を覚える。

最近、技術計算はプログラム化とマニュアル化が進んでいる。ほとんどは決まった解析プロセスに従って進められており、膨大な資料を素早く計算し結論を引き出す便利な手段である。技術者にとって、この作業はルール上、必要な手順であろう。しかし、私には何となく物足りなさ、むなしさを感じられる。式が・・・マニュアルが・・・そして現場がはたして共通の土俵上にあるのだろうか？。経験から言わせてもらおうと、マニュアルに盲従したばかりに他の情報を組み込む事が出来ず失敗した事例が少なくない。

式を構成するモデルに目を向けて、これが実状に則したものかを掘り下げて吟味する。そこに新たな世界が見えてくる場合がある。分かり切ったような事でも初心に立ち戻り、改めて見つめ直す事も必要ではなかろうか。

技術者には無駄と思われる時間が実は大切な栄養分であるからだ。与えられたマニュアルに従い、与えられたプログラムを使い、出て来た答えを良しとする。

結果が悪ければ、はたして誰の責任になろう？。

パラドックスに陥る危険性がある。

技術士は高等な計画・研究・設計・分析・試験・評価、・・・(技術士法第2条)が本分とされ、その意味は深い。

### 原稿募集

新しく「熟練技術士の声」「若手技術士の声」「女性技術士の声」「私のチャレンジ」コーナーを設けております。会員の皆様の声をお寄せください。詳細については、九州支部事務局へお問合せ下さい。

# 技術の必要性を理解して もらうことの大切さ



加藤 正明  
(農業・大分)

私は、昭和59年に農業土木技術者として大分県に採用され、爾来25年間、現場では、農業土木関係の公共事業の設計・積算・現場管理等に携わり、事業関係者や周辺住民に対する技術的な説明をする機会も少なくありませんでした。このような経験をとおして、行政の技術者としての説明責任（アカウントビリティ）の重要性を痛感し、7年前に技術士試験を受験いたしました。その後、職場を出先事務所から県庁の企画部門や知事秘書を経験する中で、これは現在の広瀬知事のモットーなのですが、「県民の目線」で物事を考えることの重要性を学びました。

昨年、4年ぶりに農業土木関係の主管課に帰ってまず感じたことは、農業土木技術がマイナーなイメージで受け取られており、技術士として農業土木技術の必要性を社会に対してもっとPRすべきである、と強く感じました。

農業土木技術は、農業の生産性の向上、生産・生活環境の改善を図るため、これまで、圃場整備や農道整備、ダムや水路など水利施設の整備から、上下水道や集落環境の整備などを担ってきました。しかし、その整備水準は、ここ20年間の経済対策やUR対策などで著しく伸び、条件不利地域の多い大分県でも7～80%の整備水準となっています。

しかし、このように整備が進んだことから、「農業・農村整備はもう終わった」と言う人が出てくるようになりました。農業土木技術の必要性を否定しているのです。本県の職員採用試験においても、農業土木という職種がなくなり、一般土木とあわせた総合土木という職種に一本化されました。若い技術者の中には、仕事に対するやりがいや薄れ、希望がもてず将来を悲観する人も出てきています。

農業・農村整備は、新たに施設を設けるような事業は、今後少なくなっていくのは事実ですが、これまで築かれてきた施設が、あと10から20年後には耐用年限を迎えます。耐用年限を迎える前に、機能診断し、適時・適切に補修や部分更新を行っていくことによって、ライフサイクルコストを低減することができます。いわゆる、農水省ではストックマネジメント、国交省ではアセットマネジメントといわれますが、今後はこれら保全・更新事業が主流になっ

てきます。このように農業・農村を存続させる必要性がある限り、農業土木技術の必要性は否定されません。

先日、「限界集落」をめぐり、ネット上で「都市の理論」と「地方の主張」が火花を散らしているという新聞記事を目にしました。「日本の総人口が減る傾向の中、経済的に成り立ちづらい末端の地域に居座り、医療不足だの、福祉の手が届かないなどと言っている住民は、税金を無駄に使わせる原因をつくっているわがままな人間ではないでしょうか」という「都市の論理」を目にして驚きました。かつて「コンパクトシティ」というものが提唱された時期がありましたが、まさしくそのもので、経済第一主義や一極集中を助長するものです。

このようなことが言われる原因には、いろいろあると思いますが、その責任の一端に私たち技術者の広報不足もあると思います。どうして農山村部、そこで営まれる農業、林業を残す必要があるのか、技術者として論理的に説明して、それを広く県民・国民に伝えなければいけないと思います。農山村部に農林家が農業や林業を営むということがどれだけ重要か、それはただ食料、木材の国民へ供給だけではなく、水田や山林が雨水を貯留し、地下へ浸透させることにより、洪水を未然に防止し、地下水や河川水の供給源となって、日本の国土、都市住民の生活の安全・安心にも大きく役立っている、ということを再認識してもらう必要があります。

このような農山村の維持の重要性をわかりやすく説明するためには、ただの広報では説得力はなく、あらゆるデータを駆使しながら、都市住民に身近に感じてもらうなければならないし、そこに技術屋、技術士の役割があると思います。

技術の必要性を理解していただくには、まず技術が必要とされる対象、人、産業、地域そのものの重要性を広く国民に認識していただく必要があると思います。そのためには、技術屋も県民・国民の目線でモノを見て、考える、そして説明し、共感を得る。このことによって、技術の必要性を理解していただき、技術屋、技術士にとって明るい将来が開けてくると確信しています。

## 修習技術者の声

### 修習技術者として

馬渡 浩司  
(農業・熊本)



私は昨年春に入社、その年に技術士一次試験に合格し、今年の3月に技術士補の登録をしました。技術士補に登録したことにより、技術者としての第一歩を踏み出し、さらに技術者として成長していかなければいけないという気持ちでいっぱいです。一次試験の勉強としては、仕事を終えてから夜1時間ずつ、昼休みに30分ずつととにかくコツコツ積み重ねました。基礎科目については大学を卒業して間もない受験だったため、頭の隅の記憶を頼りに、専門分野については技術士会の講習を受講し、また会社の先輩に聞いたり、多くの人の助けもあり、無事試験に合格することが出来ました。

修習技術者として今後は、多くの技術者の方々から様々なこと学び吸収することを第一に考え行動し

ていきたいと思っています。日々の業務の忙しさに負けず、自身の技術と知識を向上させることを常に考え、そういった意識の中で積極的に資格を取得していきたいと考えています。将来的には、まだ漠然とした考えですが、「一人前の技術者」を目指したいと思っています。幅広い知識と深い専門性を持ち、そして「この分野ならばあの人に聞けば大丈夫」と言われるような、多くの人から慕われる技術者を目指していこうと思います。また、近年大雨や地震といった災害が多発していますが、そういった災害時に力を発揮出来る術力を身に付けたいとも思っています。困っている人を助けたり、社会に貢献できるような技術者でありたいと思います。そのような技術者を目指すためにも、技術士を取得することを今一番の目標としています。社会人としてまだまだ未熟な私ですが、私の今のこの気持ちは、この先技術者として生きていくうえでとても大切なことであると思います。この先何十年後であろうとも、この気持ちを常に持ち続けて、初心忘れるべからずの精神で努力し、邁進していきたいと思っています。

### 土砂災害対策業務 について

井上誠一郎  
(建設・長崎)



私は、30年近く土砂災害対策に関する調査・設計・施工の仕事に携わって参りました。急傾斜地崩壊対策工事の施工管理に従事していたときには、現場の騒音が迷惑そうな近所のお年寄りから「この山は、何百年も崩れたことはない」と苦情を言われ、そのときの私の返答は「今まで100年間崩れんやっただかも知れんけど、もしかしたら明日崩れるかも知れんよ」と話していたことを思い出します。

まさに土砂災害は、突然訪れるものです。近年、地球温暖化現象に起因する異常気象により、その危険性はさらに高まっているものと思われます。

調査設計時には、人命・財産を守る事を第一義と考え、「調査に入った以上、この現場が崩壊して人

命を亡くす事があれば自分の責任だ」と思い対策工が完成するまでは、大雨の時には現場の見回りや住民への安否の連絡をした事もあります。ある時は、自分の説明能力の不足により、経済性の問題で発注者と激論を交わしたこともありました。

私にとって、急傾斜地崩壊対策の調査において「この崖は、崩壊の可能性があります。」と言う結論を出すよりも「この崖は、崩壊しません。」と言う結論を出すことの方が何十倍も恐怖を感じておりました。それは、自分の調査・解析は正しかったか、何か見落としをしていないかと言う恐れからくるものでした。

今となっては、長崎大水害、雲仙普賢岳火山災害等いくつかの災害現場を身近に経験し対処したことによってその恐れも多少は軽減されるようになったと思われませんが、今後は異常気象による土砂災害が心配される中、一層の備えが必要になるものと思われ、我々、技術者にも更なる技術習得の努力が要求されるものと思われれます。

# 日韓技術交流と日韓文化交流

今西 肇

(建設、博士(工学)・福岡)

2002年10月、福岡からソウルに渡って三星物産建設部門の顧問として6年が経った。この間、為替レートを見ると2002年当時、100円が1100ウォンであったものが5年が経過した2007年9月には、韓国経済の順調な伸びとともに730ウォンになり、円建てにしていた私の年俸は実に35%も減少したのであった。笑い事では済まされなくなっていた。しかしながら、それから1年経った今年の9月には1100ウォンに戻り、12月1日現在ではウォールストリートの金融危機により1500ウォンにまで急上昇したのである。改めて外国との付き合いの難しさを実感した出来事であった。

さて、日韓の技術交流について少しお話をしよう。

私が支援した部署は会社内の技術支援チームだ。施工指導を中心に建設品質を向上させ、リスクを低減することにある。守備範囲は土木・建築・プラント・住宅・海外と地盤に関する問題はすべて解決しなければならない。しかし、ただ単に答えを出す間違いないで返ってくる。「そんなことはわかっている。」「もうすでにやっている。」などである。

しかし、実際にはわかっていないから問題が発生する。よくよく考えてみると、Copyされた文章のように知っていても、理解しているところまでにはなっていないのである。そこで、知識を押し付けるのではなく、知恵を働かせるヒントを指導することが現場にとっても受け入れやすいと気がついた。そこで、現場に対する技術指導を「ものの考え方」を中心にしたのである。それぞれの会社にもよるが技術を工場生産のようにパーツに分けて組み合わせることが地盤技術であると考えているので、アウトソーシングが進んでいる国の事情からすると、直接的な答えを要求されたが、現場あわせが多い地盤の現場では、ものの考え方が必要であるという私の話に耳を傾け始め、最終的にはみんなで解決策を模索するという理想的な形になった。何が重要で何が必要かを認識

したからこそ、次の技術発展につながりリスクの低減にもなることを理解してくれたのである。また、ほとんどの日本から赴任する技術者には内弟子と称する技術助手を通訳代わりにあたえられる。内弟子にその技術を伝授されなければならない。しかし彼らのほとんどは高度な技術を持っているにもかかわらず通訳代わりに使われるので、途中で投げ出してしまう状況を何度となく見た。

私の場合、6年間で3人の助手が私をサポートしてくれたがその3人とも途中で投げ出しもせず十分に私のDNAを受け取ってくれたことは幸いであった。技術助手や通訳秘書、運転手などを大切にすることで、私の仕事の内容も充実していったのだ。ソウル勤務において、技術支援に何が必要かと言われるれば、もちろん適応能力もさることながら、技術者としての変わらぬものの考え方、見方と素直な気持ちだと気がついた。

さらに、技術者としてだけではなく、一人の人間としての魅力を持ち続けることも重要である。それには異文化にも十分に目を向けなければならない。

2007年、2008年の2度にわたり日韓共同開催文化交流事業「日韓交流おまつり2008 in Seoul」の運営委員長をする機会を得た。韓国には日本企業および日本人会と一緒にソウルジャパンクラブ(SJC)がソウル市庁舎北側のプレスセンタービルの8階にある。このSJCの教養文化活動をしていて、このような大役を仰せつかったのだ。2007年の行事前日、「仕事とこのようなボランティア活動を両立させている」と韓国の友人に話したら、「信じられない」という言葉が返ってきた。韓国ではボランティアという言葉がまだうまく定着していない。しかし、その友人は私のことを理解して、2008年は一緒にボランティアをしてくれた。

テーマ作り・組織作り・人脈作り・資金集めなどを通じて、人事管理・資金管理の統括責任者として、

25人のスタッフと500人のボランティアを率いて悩み・決断などさまざまな経験をした。また、建設事業だけでは接触することの少ないさまざまな業種の人も交流ができた。さらに、行政とのかかわりも勉強することができたことは、新たな世界を広げることになった。総合力が必要なCivil Engineerだからできる役割であったと思っている。

「日韓交流おまつり2008 in Seoul」は2008年9月27日（土）・28日（日）にソウル市の中心であるソウル広場および清溪広場において、のべ10万人を集めて成功裏に開催された。NHK総合テレビでも28日（日）18時から日本に生中継されたっており、インタビューの中で、韓国人の友人が私以上に熱心にこの

ボランティア活動を表現していたのには驚いた。

日本と韓国の文化を通じた市民交流・地方交流・青少年交流が、政治に左右されることなく末永く続いていくことを願っている。

両国は、世界のどこよりも民族的にも地理的にも近い存在であるが、風土の違いやこれに根ざした考え方の違いがある。その違いをお互い理解することができれば、和音のようなハーモニーを奏でることができるだろう。技術交流のみならず、日韓の交流がますます発展することを祈る。

そして、これからは九州福岡から海外へ向けて技術も含めた文化の発信を行いたい。

（株式会社テクノックス九州 海外事業本部長）

## 私のチャレンジ

### 文農両道を目指して



竹内 良治

（建設、上下水道、衛生工学、総監・北九州）

#### 1. はじめに

技術士に登録して、19年。以来、歴史、植物などに情熱を費やしてきた。植物については、稲作農家の子として勉強してきた。99年から「緑・花知識文化の試験」という面白い試験が始まった。植物と人間との関わりの問題で、特級から5級まで判定される。4回挑戦し、1級が3回、2級1回です。特級は程遠いので、今年は休戦した。

歴史については、46億年から現在まで、五目煮である。特に、江戸については明治政府の「江戸は暗く、明治をバラ色に」のプロパガンダが隠然として生きている。ある尊敬する学者の言葉に、最も嫌いな作家は明治礼賛主義のS氏という言葉に衝撃を受けた。その視点でものを観ると、目のうろこが掻き落ちることが多い。その一例を日蘭関係について触れてみる。

#### 2. オランダの出自

オランダは16世紀初め、ライン河の河口にスペインの植民地ネーデルランドとして商工業地が興る。宗教は新教のため、旧教の宗主国から、度重なる弾圧を受ける。たまたま、1568年、独立戦争を始める。

日本との関わりは、「1600年、オランダ船が大分に漂着した」と教科書に登場する。この時点でオランダは実在せず、また漂着でなく到着であることに触れる。

日本が西欧に登場するのは、元を訪れたマルコ・ポーロが東方見聞録において「黄金の国ジパング」である。この1世紀前に、平泉中尊寺金色堂建設があった。その前に、遣唐使で唐に渡った空海が密教の奥義を極めるために砂金を惜しげもなく使った史実がある。

次に、1492年、コロンブスは東方見聞録の黄金の国ジパングを目指したのは有名である。それから50年後、鉄砲2丁を200両で買い取った国ジパングが西欧で大評判になった。4、5kg鉄筒2本を、金貨30kgで購入した事実は驚異的である。

一方、オランダの独立戦争は膠着状態となり、これを打破するために日本との交易に賭けることになった。5隻の艦隊を編成し、船員を国内外から集める。そのひとりに英国人ウィリアム・アダムスがいた。

1598年、艦隊は出航するも、大西洋の制海権はスペイン、ポルトガルにあり、無謀な作戦である。まず、アフリカ沖で、2隻拿捕された。つづいて、3

隻目がはぐれて引き返す。残る2隻でマゼラン海峡を突破するが、チリ沖で1隻沈没した。最後の1隻がリーフデ（愛）号でアダムスとともにヤン・ヨーステン（八重洲の語源）が乗り合わせていた。

ダッチ情報網は、敵国で「キリシタン大名大友宗麟」の情報をつかんでおり、ひたすら豊後を目指した。

### 3. オランダの凄さ（西欧の劉邦）

1600年4月19日、豊後の臼杵に到着し、長崎奉行の指示で、大阪に向かう。5月12日、5大老首座家康と接見する。電話のない時代、22日間信じられない早さである。ここで、イエズス会の注進を論破し、家康から交易の許可を勝ち取る。オランダのアカウンタピリティと情報戦略の勝利である。お土産品鉄砲数百丁はもちろんのこと、軍艦としての船載していた大砲も献上する。この大砲が4ヶ月後の関ヶ原で小早川に叛意を促すことになる。

その後、中国で仕入れた価格の数倍で日本に売れたため、利益はぼろ儲けとなり、莫大な金銀銅を本国に送還できた。独立戦争の戦況は一気に好転し、休戦となった。石見銀山が世界遺産となったのはポトシの銀山の後を十二分にカバーしたようだ。

オランダの凄さはここから始まる。家康の国づくりを学ぶ。まず、西欧の「三十年戦争」と江戸の「元和エン武を同時に観察することにより、戦争のアホらしさと平和のすばらしさから、1648年、ウェストフェリア条約で永世中立国としてスイスと伴に独立を承認される。しかし、スイスのように防衛線がないため、ナポレオンとヒットラーに占領される。

オランダが江戸から学んだ最大の成果は「棲み分

けの哲学「分際」である。オランダが国力を増してくると、英国との覇を争うことになり、英蘭戦争が勃発する。三次戦争まで行くも、白黒の決着をつけないで、英国はインド、アメリカを、オランダはインドネシアと棲み分けることで、共存共栄を図る。アムステルダムは金融商業の中心として繁栄を続ける。

17世紀以降も西欧で戦果は止まず、平和な江戸と庶民生活レベルの差が大きくなる。元禄江戸のすばらしさを紹介したのが、ケンペルの「日本誌」である。日本の女性は、詩を認め、楽器を奏で、毎日お風呂に入る世界で最も美しいという内容です。

また、文化文政に訪れたシーボルトは、ナポレオンに蹂躪された国土再建にあたって、「日本誌」の真偽を確かめるべく、ドイツ人の博物学者シーボルトを派遣する。ところが、日本誌以上であったと莫大な物証と共に報告する。その中に伊能図もあった。

### 4. おわりに

こうしてみると、江戸は国民ため生糸を買い、明治は軍備のために生糸を売ったといえる。戦前の自虐史観という前に江戸の暗史観から脱却するべきである。

歴史は本当に面白いが、植物の方も捨てがたい。特に退職し、第二の職場となった今、植物でも光合成する方でなく、分解者の菌類すなわちキノコを目指したい。先日、シイタケ用にほだ木20本分のコナラの木を切ったところです。いずれ、ヒラタケ、ナメコ、マイタケまで極めたい。文農両道も江戸の生き方でした。

## 会員ニュース

### ☆(社)日本技術士会（九州支部）入会

〈平成20年8月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員 遠藤 敏行	建設	いであ(株)九州支店
福岡	正会員 城戸 和寿	建設	(株)東京コンサルタント九州支店技術第一部
福岡	正会員 篠原 善美	上下水道	(株)第一技術コンサルタント技術部
熊本	正会員 泉 拓史	農業	農林水産省九州農政局農村計画部

〈平成20年9月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員 大野 泰教	建設	パシフィックコンサルタンツ総合技術(株)九州支社

福岡	正会員 草場 智哉	建設	(株)建設技術研究所九州支社河川部
鹿児島	正会員 有馬 純彦	農業	(株)シルコ鹿児島事務所
福岡	準会員 西村 武吉	建設	設：明大工業(株)

〈平成20年10月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員 安田 久	金属	日立金属(株)浜松営業所自動車技術部
熊本	正会員 関本 郁夫	建設	(株)中央土木コンサルタント技術部
福岡	正会員 松嶋 憲昭	建設	設：西日本技術開発(株)土木部
鹿児島	正会員 小島 くみ	環境	(株)鹿児島県環境技術協会技術部
宮崎	準会員 徳田 安	建設	設：(株)アップス

## 協 賛 会 員

……………[福 岡]……………	(株)富士ピーエス九州支店	協同エンジニアリング(株)
(株)アイ・エヌ・エー九州支店	富洋設計(株)九州支社	ダイエーコンサルタント(株)
いであ(株)九州支店	平和測量設計(株)	大洋測量設計(株)
(株)エスケイエンジニアリング	(株)松本組	東洋測量設計(株)
(株)カミナガ	(株)唯設計事務所	西日本コンサルタント(株)
(株)九州地質コンサルタント	……………[北九州]……………	(株)日建コンサルタント
九州環境技術研究所	環境テクノス(株)	日進コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所福岡支店	(株)九州設計事務所	松本技術コンサルタント(株)
(株)構造技術センター福岡支社	九和設計(株)	……………[宮 崎]……………
(株)サンコンサル	(株)酒見設計	(株)アップス
新地研工業(株)	(株)太平設計	九州工営(株)
第一設計(株)	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水コンサルタント
第一復建(株)	(株)松尾設計	(株)ケイディエム
(株)大建	……………[佐 賀]……………	(株)国土開発コンサルタント
大成ジオテック(株)	(株)九州構造設計	正栄技術コンサルタント(株)
(株)ダイヤコンサルタント九州支店	新栄地研(株)	(株)白浜測量設計
(株)タイヨー設計	西日本総合コンサルタント(株)	(株)親協
大和コンサル(株)	日本建設技術(株)	南興測量設計(株)
(株)高崎総合コンサルタント	……………[長 崎]……………	(株)西田技術開発コンサルタント
中央開発(株)九州支社	扇精光(株)	(株)東九州コンサルタント
(株)東京建設コンサルタント九州支店	(株)実光測量設計	㈹福島測量設計調査事務所
東邦地下工機(株)	(株)新栄設計事務所	南日本総合コンサルタント(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	大栄開発(株)	(株)都城技建コンサルタント
西日本技術開発(株)	大洋技研(株)	(株)宮崎産業開発
西日本コントラクト(株)	西日本菱重興産(株)	(株)ロードリバーコンサルタント
日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店	……………[熊 本]……………	……………[鹿児島]……………
日本工営(株)福岡支店	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	(株)九州開発エンジニアリング	コアツ工業(株)
日本地研(株)	……………[大 分]……………	中央テクノ(株)
(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	九建設計(株)	(株)久永コンサルタント
(株)福山コンサルタント	九州特殊土木(株)	

## 九州支部平成20年度 第4回CPDのご案内

1. 日時 平成21年1月24日(土) 10:00~17:00
2. 場所 福岡商工会議所ビル 302号  
(〒812-8505 福岡市博多区博多駅前2-9-28  
TEL: 092-441-1110)
3. 講師及び内容(講演順不同、技術士にはCPD認定6単位 当日CPD参加票授与)
  - 1) 松藤泰典氏(北九州大学副学長・工博)  
【演題: 技術者倫理について】A-1
  - 2) 後藤雅宏氏(九州大学大学院工学研究院・教授、工博)  
【演題: ナノテクが解明する食品偽装】A-4
  - 3) 田中泰幸氏(九地整、九州圏広域地方計画推進室・総括副室長)  
【演題: 九州圏広域地方計画について】A-5
  - 4) 中村隆市氏(㈱ウインドファーム代表取締役)  
【演題: 出会いから生まれたスロービジネス物語】A-6
4. 参加費(資料代): 1人3,000円(当日徴収。なお、昼食・飲料等は各自負担をお願いします。)
4. 参加申込先: (社)日本技術士会 九州支部  
TEL: 092-432-4441 FAX: 092-432-4443  
参加ご希望の方は、下記のいずれかの方法にてお申し込み下さい。①を推奨します。
  - ①支部ホームページ「CPD案内」  
<http://www.pekyushu.com>
  - ②所要事項をご記入の上、九州支部宛FAXにて送信

## 会誌“技術士”最近の主要目次

### [PE] 技術士10・2008 -500号記念-

- ・技術士は何をめざすのか/高橋 修
- ・プロフェッションとしての技術士/青木ゆかり・岩熊まき・小村徹・桂利治・坂本恵一・仁田晃人・平松明子
- ・地下鉄にかける/君島光夫
- ・自動化技術にかける/熊谷 卓
- ・宇宙開発における技術士の役割/渡辺和樹
- ・情報記録誌の開発/前田秀一
- ・リサイクル社会への貢献と私の夢/石田佳子

### [PE] 技術士11・2008

- ・おとなは、だれも、はじめは子どもだった/小寺弘之
- ・原子力分野における技術者資格と倫理/桑野良明
- ・ソフトウェアテストその技術性と動向/本田和幸
- ・安全があれば安心を得られるか/奥田孝之
- ・プロジェクト進行における合理と情理/矢野和隆
- ・最近の水産業の技術課題/中津達也

### [PE] 技術士12・2008

- ・ある企業技術士の雑感/安藤 修
- ・田んぼの取り扱い方を例にした環境保全の技術者倫理/井上祥一郎
- ・次代電気通信網(NGN)の展望/杉浦右蔵
- ・製品の安全を伝える商号、商標について/松居宏典・福原基忠
- ・技術リスクマネジメント/中村昌允
- ・熱から電気を取り出す夢の材料/河本邦仁

## 編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、北京オリンピックやノーベル賞受賞など明るいニュースがありましたが、一方で相変わらずの偽装問題、家族内殺人から無差別殺人、インターネットが誘発する様々な事件が目につきました。心の面での孤独や不満など深刻な状況が少しずつ社会に広がっているような気がします。このような状況を見るにつけ「人と人との絆」、「倫理」の大切さを感じます。

技術士を取り巻く状況を見ますと、技術士制度改正に伴い若い修習技術者や技術士が誕生しています。九州支部会員も20代から高齢の方まで幅広い年齢層で構成されていますが、年々若年層の増加が顕著になってきています。

支部ではこの「技術士だより」を通じて、相互の思いが垣間見れたらと思い「熟練」「若手」「女性」技術士の声のコーナーを設けています。それぞれの方の個性的な考え、思いを紙面を通じて読み取っていただければと思っています。

今年もよろしく願いいたします。(棚町)

発行: (社)日本技術士会九州支部

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

(シック博多駅前ビル203)

九州支部: ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: pekyushu@nifty.com

九州支部ホームページURL:

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>

センター: ☎/FAX(092)432-4443

印刷: (株)川島弘文社